



## 米山月間に因んで

国際ロータリー第2510地区 米山記念奨学会・学友委員会

委員長 入井 浩樹  
(滝川RC)

RID2510地区における2022-23年度の寄付金7月のスタートは約324万円でCOVID-19が高止まりの中でも前年度に比べ約59万円の増加となりCOVID-19が蔓延し始めた2019年度以降、初めて7月の寄付額で前年度を上回るスタートを切ることができました、会員の皆様のご支援に厚くお礼を申し上げます。

米山月間に因んで米山記念奨学会委員会より三つのお知らせをさせていただきます。

一つ目は米山学友の周順圭さん（中国国籍でアメリカ在住、1962-63東京RC、1963-68東京世田谷RC）が5月31日に東京米山記念奨学会本部を訪れ、個人として50万ドル（約6,650万円）の大口寄付をお申し出くださいました。周さんは1958年に来日し、東京工業大学学部課程、同大修士課程を卒業後、東京大学博士課程へ進学、工学博士の学位を取得した後、渡米しました。半導体の専門家として数々の企業を成功に導き、シリコンバレーのハイテク業界では広く知られている人物とのことです。今年86歳の周さんは、生まれ育った中国、米山記念奨学生として専門教育を受けた日本、そして成功をおさめたアメリカの架け橋となって支援と恩返しのお気持ちを込め寄付をしたいとお話されたそうです。



事務局を来訪した周さん(前列左)



二つ目はウクライナの米山学友ラチアナ・セゾネコンさん（2017-19大阪城南RC）近況をご紹介します。戦争勃発後、それまで製剤科学者として薬剤を開発する日々を送っていたラチアナさんの生活は一変。祖国のために何かできることを・・・と考え彼女は志願してボランティア団体に入り最も弱い立場にいる人々のために、赤ちゃんのオムツやミルク、衛生用品などの生活必需品を送る活動を始めました。彼女の世話クラブである大阪城南RCも、会員や米山学友から寄せられた義援金を送金したという事です。ラチアナさんは「ロータリーの皆様からのお金は難民の支援に充てています。私は首都キーウから80kmほど離れた所において、破壊された町から逃げてきた人々の手助けをしています。一番の願いはロータリーで学んだ戦争の無い平和です。」と語っていたそうです。

三つ目は米山学友の第3回世界大会「再開in関東」がいよいよ2023年8月5日と6日に、つくば国際会議場、ホテルグランド東雲にて開催されます。2年に一回開催されます米山学友世界大会には文字通り世界中の米山学友（米山記念奨学生OB、OG）が集う大会です。登録料はロータリアンとその家族15,000円、米山学友、奨学生7,000円、登録方法は米山記念奨学会ホームページ等で告知致しますしRID2510地区米山記念奨学会・学友委員会からも地区ホームページで告知を致します、会員の皆様のご参加をお待ちしております。